

「気象業務支援センター大阪システム (気象情報配信バックアップシステム)」運用へ

(財)気象業務支援センターでは、この6月に、即時気象情報提供用の「電文形式データ配信システム」、「ファイル形式データ配信システム」及び「防災気象情報配信システム」のそれぞれに「緊急代替システム」を新たに導入し、配信機能の強化を行いました(当センターホームページにその紹介記事を掲載中)。また、この措置に加えて、首都直下型地震や火災等により、東京に設置している当センターのこれらの配信システムが壊滅的な被害を受けた場合や都内大手町周辺の通信網に大規模な障害が発生し、同システムから長期間にわたり配信ができない際の対策として、当センターでは大阪管区気象台庁舎内に以下のシステムを構築する作業を進めてきました。

このシステムでは、電文形式データ及びファイル形式データで取り扱う情報のうち、気象庁の西日本アデスシステム(大阪管区気象台に設置)から提供可能な情報を取得し、そのうち定時に発表される情報については利用者がサーバーから必要な情報をダウンロードし、また、注意報、警報、地震関係報等の不定時に発表されるものについてはメールによる配信する機能を持っています。同システムは本年7月30日から仮運用中であり、8月10日からは本運用を予定しています。この新たな大阪システムにより、気象庁本庁舎内に置かれている当センターの配信システムからの情報提供が不能となったときは、利用契約者(当センターの即時気象情報配信サービス(電文データおよびファイルデータ)の契約者)は予め割り当てられた専用のIDとパスワードを用いてインターネット環境により同システムから情報を入手することができます。

同システムでの情報の流れは、次のとおりで、これまでの当センターの配信システムとは別の独立したものとなっており、東京から遠隔監視・操作による常時運用を原則としています。

気象庁 ⇒ (気象庁の専用回線) ⇒ 西日本アデスシステム(大阪管区気象台)
→ 当センターの大阪システム → (インターネット) → 利用者契約者



写真：当センターが大阪管区気象台庁舎内に構築したバックアップ用のシステムの外観

本大阪システムの稼働により、当センターでは、本年3月9日(月)の電文形式データ配信システム長時間の障害への一連の対応をほぼ完了しました。引き続き当センターでは、即時気象情報の的確な提供の確保に全力を尽くしてまいります。